

## 夜間灯火に飛来した蝶14種

相坂耕作

夜行性で走光性(趨光性)をもつ昆虫を採集調査する際、光の刺激に誘引されて集まる蛾や甲虫類を調べているうち数多く蝶が飛来してきたので報告しておく。なお光源はすべて水銀灯に飛来してきたものである。

## 夜間採集で得られた蝶

(1)ミヤマカラスアゲハ(♀)	夫栗郡引原	1979-VIII
(2)スミナガシ(♂)	"	1980-VIII-22
(3)ルリタテハ	"	1980-VIII-23
(4)オオムラサキ(♂)	"	1980-VII-27
(5)アサマイチモンジ	"	1980-VIII-30
(6)コムスジ(♀)	"	1980-VIII-30
(7)ヒメウラナミジャノメ	"	1979-VIII
(8)ヤマキマダラヒカゲ	"	1980-VIII-30
(9)ヒメキマダラヒカゲ	"	1980-VIII-30
(10)クロヒカゲ	"	1980-VIII-30
(11)ダイミョウセセリ	"	1980-VIII-23
(12)オオチャバネセセリ	"	1979-VIII
(13)ヒメキマダラセセリ(♂)	"	1980-VIII-30
(14)イチモンジセセリ	姫路市飾磨区	1980-IX-4

以上14種が得られた。(1)ミヤマカラスアゲハ♀は松尾隆人氏の見撃(4)オオムラサキ♂は菅原昭夫氏の見撃(5)のアサマイチモンジは松尾隆人氏の見撃種である。他の(2)(3)(6)(7)(8)(9)(10)(11)(12)(13)(14)種は筆者採集品であり、いずれも初めて採集された日のみデータしておりスミナガシ・ヒメウラナミジャノメ・ヤマキマダラヒカゲ・ヒメキマダラヒカゲ・クロヒカゲ・イチモンジセセリなどは多数得られている。

尚夜間灯火に来た蝶として鳥取県大山にてウラギンシジミ1972-VII-7木村二郎氏が得られており各地ではミズイロオナガシジミ・エゾミドリシジミ・サトキマダラヒカゲや各種ジャノメチョウ科・セセリチョウ科の記録が見られる。今回得た中にはアゲハチョウ科1種・タテハチョウ科5種・ヒカゲチョウ科4種・セセリチョウ科4種でシロチョウ科・シジミチョウ科は全然得られなかった。

今回の調査に協力を頂き貴重な採集データを御提供頂いた松尾隆人氏また採集された標本を御恵与下さった菅原昭夫氏に感謝致します。

(KOUSAKU AISAKA 〒672 姫路市 )

## 西播地区でのクロコノマ採集例

稲田和久

1980年5月4日(日)曇。雪彦山でスギタニルリシジミを採集中のところ、駐車場の東縁でクロコノマ1♀を採集したので報告する。

天候が悪かったせいもあり、道路からでも発見できるほど飛びまわっていた。その周辺及び川の対岸のススキを見たが、卵は見られなかった。

また、1973年8月22日に船越山で甲虫のスウィーピングを行っていたところ、昆虫館の前あたりのススキでクロコノマの終令幼虫を得た。家に持ち帰り飼育の結果、9月2日に♂が羽化した。

また、1977年8月30日に揖保郡御津町新舞子のミカン園でクロコノマ1♂を採集した。周辺には食草となるススキが多くあり、再度と思い採集には出掛けるが、いまだに目撃すらできない。確認した話ではないが、京見山でも目撃例があるとのこと、今後確認を急ぎたい。

(S. 57 : KAZUHISA INADA 姫路市 )

## ウラギンシジミの越冬についての知見

広畑政己

本種の越冬個体を確認したのは、兵庫県神崎郡市川町上牛尾で、1978年1月2日と1979年1月1日に樹高が約4m程あるツバキから発見した。

成虫は密生したツバキの葉裏に静止していたが、木を激しく揺り動かすと、ヒラヒラと木の葉が落ちるよう落下してくるものもあれば、一直線に落ちて来て、そのまま横倒しになり動かなくなったものもあった。

1974年1月2日の厳しく冷え込んだ風の強い日にも、同地で同じツバキから落下して死んでいた個体を2頭目撃している。

県下では本種の越冬についてはなんら問題はないと考えていたが、気温やその他の気象面でかなりの影響を受けているようである。

ツバキの他にも同地でチャの木より本種の越冬個体を確認している。

(S. 28 : MASAMI HIROHATA 姫路市 )